

# 日独新聞記事の文体比較のために

—日本語らしい報道とドイツ語らしい報道—<sup>1</sup>

西 嶋 義 憲

## 0. はじめに

熊谷(2007) は、新聞記事における日独の違いについて、日本の新聞は報道内容に関して客観的・中立的であるが、ドイツの新聞はそこに解説・解釈を加えるので主観的であると述べている。一般に、新聞記事は事実を 5W1H (いつ、どこで、誰が、なぜ、どのように、何をした) という枠組みにしたがって記述する (伊藤, 1987)。熊谷(2007)の主張をこの枠組みにあてはめると、日本語の新聞記事は、この枠組みに沿った形で事実を端的に述べることになる。他方、ドイツの新聞記事は、その背景や経緯をより詳細に述べるという文章構成をとるものと予想される。このスタイル (文体) の違いを仮説として設定し、5W1H という枠組みに基づいて事実だけを端的に述べるのか、5W1H の各項目間に情報量の差はあるのか、さらに、言及される情報内容に差異はあるのか、といった観点から日独新聞記事を比較することにより、この仮説を検証し、日独両言語の新聞記事のスタイルの違いを明らかにする。

---

<sup>1</sup> 本稿は 2016 年 11 月 20 日に愛知産業大学において開催された日本文体論学会第 110 回大会のプログラムの 1 つ「研究フォーラム 『らしさ』の文体論—英語・日本語・ドイツ語を考える—」において分担発表した「新聞記事の日独比較」に基づいている (西嶋, 2017)。

## 1. 問題設定

### 1.1. 日本の新聞は客観的、ドイツの新聞は主観的？

熊谷(2007)は、日独の新聞記事の違いについて、内容という観点から、次のように述べている。

日本とドイツの間で最も違うものの一つは、新聞の内容だろう。それは、日独間の報道に対する基本的な考え方の違いも象徴している。(略)

日本の報道の基本は、事実を正確かつ速く伝えることである。(中略)つまり日本の報道では、客観性と中立性を何よりも重視している。このため、新聞記事は短くなる傾向がある。(略)

かたやドイツの新聞やテレビは、全く逆である。当然何が起きたかについても報道されるが、記者たちが重視しているのは、起きた事件などの背景の解説と、事件をどう解釈するかについての評論や分析である。したがって、ドイツの新聞は日本の新聞に比べて主観的な色彩が強く、記事もはるかに長くなる傾向がある。

熊谷によると、日本の新聞は内容に関して客観的・中立的であり、他方、ドイツの新聞は主観的であるという。この指摘をもとに、新聞記事の文体比較について考えてみよう。

### 1.2. 新聞記事の文体比較

上記の熊谷の主張を、当該言語の「らしさ」という文体の観点から解釈するとどうなるであろうか。一般に、文体を問題にする場合、文学的文体論と言語学的文体論の2種類を区別することができる。前者は特定の作家に固有の特徴的な表現様式を問題とするが、後者は機能的に等価な実用テキストの、たとえば対象読者による表現様式の異同を扱う(西嶋, 1988)。本研究では、日本とドイツにおいて対応すると見なされる新聞記事の比較を行ない、そのテキスト構成上の異同を明らかにすることを試みる。たとえば、事件報道で

は、基本的にいわゆる 5W1H にしたがって、「いつ」「どこで」「誰が」「なぜ」「どのように」「何をした」のかについて述べられる(伊藤, 1987)。しかしながら、熊谷(2007)が指摘しているように、日本とドイツでは、その表現の仕方には違いがあるらしい。その違いが具体的にどのような形の言語表現として出現するのかについて、文体論的な対照研究が可能となる。

このような観点から熊谷(2007)の主張を捉えなおすとどうなるであろうか。日本語の新聞記事の内容は事実を客観的にかつ中立的に、つまり公正に報道する姿勢をもつということから、「いつ」「どこで」「誰が」「なぜ」「どのように」「何をした」のか、という事実を端的に述べる文章構成をとるのが基本となることになろう。他方、ドイツの新聞記事は、事実を端的に述べるだけではなく、背景について解説・解釈するということから、主観的な文章になるという。これは、単に事実を端的に伝えるだけでなく、その経緯をより詳細に述べるという文章構成をとることになるということだ。

### 1.3. 仮説

ここで、上記の問題設定を仮説として提示してみよう。

日本の新聞記事は、事実を事実として端的に報道する。他方、ドイツの新聞記事は、単に事実を事実として報道するだけでなく、そこに背景や経緯についても言及する。

この仮説を検証し、それによってそれぞれの言語で特徴的な文章構成法(スタイル)を明らかにすることが本稿の目的である。仮説の検証は実際の新聞(電子版)を対象に行なう。次は、分析対象となるテキストと分析方法について説明しよう。

## 2. 材料と方法

### 2.1. 材料

公平・公正に比較を行なおうとするなら、同一内容を扱った日独の記事（たとえば、同一事件を対象とした記事）を対照する必要がある（西嶋(2014)も参照のこと）。しかしながら、そのような記事は多くの場合、直接的な取材が困難なため、国際的な通信社を通して得られた情報をもとにせざるをえない。そうすると、それぞれの言語の文体的特徴が現れる可能性が制限される。そこで、日独両社会で起きた同じような事件や事故、テーマを対象にした記事と比較するのが次善の策となる。内容的に比較可能な同じような種類の事件や事故としては、交通事故が挙げられる。交通事故は、日独両社会で日常的に発生しているからである。そこで、調査対象は交通事故の記事とする。

交通事故は大きな事故でない限り、地元の地域との関連が重要である。したがって、地方紙を材料とする。対象となる地方紙は次のとおり。

ドイツ：

*Rhein-Neckar-Zeitung* (Heidelberg, <http://www.rnz.de/>)

*Freie Presse* (Chemnitz, <http://www.freipresse.de/>)

日本：

『京都新聞』（京都, <http://www.kyoto-np.co.jp/>)

『神戸新聞 NEXT』（神戸, <http://www.kobe-np.co.jp/>)

『北海道新聞』（札幌, <http://dd.hokkaido-np.co.jp/>)

### 2.2. 方法

分析の観点として、5W1H（いつ、どこで、誰が、なぜ、どのように、何をした）に関して、それだけを端的に述べているのか。そうだとすれば、その項目間に情報量の差はあるのか、ないのか。また、言及される情報に差異はあるのか、ないのか。こういった観点から調査を実施する。なお、5W1HのうちのH (how)、つまり「どのように」は、方法と程度の2通りに理解す

ることが可能であるため、その2つの観点から記述を試みる。

### 3. 分析と考察

#### 3.1. 日本の新聞記事（交通事故）

##### 3.1.1. 『京都新聞』

日本の地方紙『京都新聞』（電子版、2016年7月17日付）から引用する<sup>2</sup>。

#### **路線バスと乗用車が衝突、7人重軽傷 京都・京田辺**

17日午前8時半ごろ、京田辺市大住の市道山手幹線で、近鉄新田辺駅行きの京阪バスと、同市大住ケ丘の女性会社員（51）の乗用車が正面衝突した。女性会社員が肋骨（ろっこつ）を折り重傷、バスの乗客11人のうち6人病院に運ばれたが、いずれも軽傷という。

田辺署は、乗用車がセンターラインを越えたとみている。

この新聞記事をいわゆる5W1Hという枠組みにあてはめると次のようになる。

**いつ**：「17日午前8時半ごろ」

**どこで**：「京田辺市大住の市道山手幹線で」

**誰が**：「近鉄新田辺駅行きの京阪バスと、同市大住ケ丘の女性会社員（51）の乗用車が」

**何をした**：「正面衝突した」

**どのように**：「肋骨（ろっこつ）を折り重傷」「軽傷」

**なぜ**：「乗用車がセンターラインを越えた」

型どおりの文章構成になっていることがわかる。

<sup>2</sup> <http://www.kyoto-np.co.jp/politics/article/20160717000047>

### 3.1.2. 『神戸新聞 NEXT』

次に別の地方紙『神戸新聞 NEXT』（電子版、2016年5月27日付）から引用する<sup>3</sup>。

#### 女子高生の自転車と衝突、74歳女性重体 川西

27日午前6時20分ごろ、兵庫県川西市丸山台2の市道で、市内に住む高校1年の女子生徒（15）の自転車と、歩行中の近くの無職善積美津子さん（74）が衝突した。

善積さんは転倒し、意識不明の重体。女子生徒も転倒し、手足や頭に軽傷を負った。

川西署によると、現場は住宅街にある片側1車線の緩い坂道。

同署は通学途中で坂道を下ってきた自転車と、ゴミ出しを終えて道路を横断中の善積さんが衝突したとみて調べている。

この記事も5W1Hの枠にあてはめてみよう。

**いつ**：「27日午前6時20分ごろ」

**どこで**：「兵庫県川西市丸山台2の市道で」

**誰が**：「市内に住む高校1年の女子生徒（15）の自転車と、歩行中の近くの無職善積美津子さん（74）が」

**何をした**：「衝突した。」

**どのように**：「善積さんは転倒し、意識不明の重体」「女子生徒も転倒し、手足や頭に軽傷を負った」

**なぜ**：「通学途中で坂道を下ってきた自転車と、ゴミ出しを終えて道路を横断中の善積さんが衝突」

この記事も、5W1Hの枠内に収まり、それ以外の情報はなく、端的な構成

<sup>3</sup> <http://www.kobe-np.co.jp/news/jiken/201605/0009124727.shtml>

となっていることがわかる。

### 3.1.3. 日本の新聞記事の特徴

この2つの新聞記事に共通しているのは、「いつ」「どこで」「誰が」「なぜ」「どのように」「何をした」という型どおりに、しかもどの項目についても過不足なく記述されている点である。

また、事故に巻き込まれた当事者のおおまかな住所、職業、性別、年齢、場合によっては実名までもが記載される点である<sup>4</sup>。どこの誰が何をしたのかを中心的に記述しようとしているような印象を与える<sup>5</sup>。

## 3.2. ドイツの新聞記事（交通事故）

次にドイツの地方紙（電子版）の記事を2編引用する。

### 3.2.1. *Freie Presse*

*Freie Presse*（電子版、2016年8月29日付）に掲載された交通事故の記事である<sup>6</sup>。

---

<sup>4</sup> 実名報道は、佐賀新聞社(2005)によれば、「命の尊厳」や事件の「真相」という観点からなされるという。

<sup>5</sup> 2016年12月3日に大阪で開催された「防災のこぼ研究会」において、日本とドイツの「避難」の定義を比較し、明示性の違いについて報告した(Nishijima & Arai (to appear)も参照のこと)。その際、日独新聞記事の異同の一部にも言及したところ、読売新聞東京本社編集委員岩本洋二氏から、「日本の新聞報道は、とにかく、いつどこで誰がなぜ何をしたのか、そしてどうなったのかを端的に伝えるだけでいい。ドイツのように詳細に書いていたらデスクはパンクしてしまう」といったコメントがあった。この発言の背景には、日本の新聞記事にはひな型があって、それに合わせて文章を構成しているということである。ドイツには記事に言及すべき項目があるが、日本のように型が固定しているわけではないということである。

<sup>6</sup> <http://www.freiepresse.de/LOKALES/ERZGEBIRGE/STOLLBERG/Unfall-Radfahrer-und-Bus-stossen-zusammen-artikel9616979.php#> © Copyright Chemnitzer Verlag und Druck GmbH & Co. KG

## Radfahrer und Bus stoßen zusammen

### Jugendlicher wird bei Unfall schwer verletzt - Rettungshubschrauber im Einsatz

Lugau. Drei Jugendliche Fahrradfahrer fuhren vergangenen Freitagabend nebeneinander auf der Flockenstraße nach Oelsnitz. Wie die Polizei am Wochenende bekanntgab, fuhr hinter diesen ein Linienbus, welcher sich durch Hupen bemerkbar machte. In der Folge überholte dieser die Jugendlichen, dabei fuhren zwei Radfahrer nach rechts an den Fahrbahnrand - der dritte allerdings nach links. Mit diesem 14-Jährigen kam es zur Kollision. Der Radler prallte gegen die Frontscheibe des Busses. Dabei wurde der Jugendliche schwer verletzt. Ein Rettungshubschrauber brachte ihn ins Krankenhaus. Der Sachschaden am Bus beträgt der Polizei zufolge 2500 Euro. Zum Schaden am Fahrrad liegen keine Angaben vor. (joe)

ドイツ語の記事も、同様に、5W1Hの枠組みにあてはめてみよう。

いつ：「vergangenen Freitagabend (先週の金曜の晩)」

どこで：「auf der Flockenstraße nach Oelsnitz (エルスニッツ方面に向かうフロッケン通りで)」

誰が：「Radfahrer und Bus (自転車に乗っていた男性とバスが)」

何をした：「Der Radler prallte gegen die Frontscheibe des Busses (自転車の男性はバスのフロントガラスにぶつかった)」

どのように：「fuhr hinter diesen ein Linienbus, welcher sich durch Hupen bemerkbar machte. In der Folge überholte dieser die Jugendlichen, dabei fuhren zwei Radfahrer nach rechts an den Fahrbahnrand - der dritte allerdings nach links. Mit diesem 14-Jährigen kam es zur Kollision. (3人の後ろをバスが走っていた。そのバスはクラクションを鳴らしてバスに気づくよう仕向けた。その後、バスは若者たちを追い越そうとした。その際、自転車に乗っていたうちの2



人は右によって車道の端を走った。ただし、もう1人は左へよった。この14歳の男性と衝突するにいった)」「Dabei wurde der Jugendliche schwer verletzt. Ein Rettungshubschrauber brachte ihn ins Krankenhaus. Der Sachschaden am Bus beträgt der Polizei zufolge 2500 Euro. Zum Schaden am Fahrrad liegen keine Angaben vor. (その際、若者は重傷をおった。救助ヘリがその子を病院に搬送した。バスの物損は警察によると2500ユーロに達する。自転車の損害については記載なし)」

**なぜ：**「Drei Jugendliche Fahrradfahrer fuhren vergangenen Freitagabend nebeneinander auf der Flockenstraße nach Oelsnitz. (先週の金曜の晩、3名の若者が自転車に乗り、横並びでフロッケン通りをエルスニッツ方面に走っていた)」

この6つの項目すべてに言及されているのは、日本の記事と同様だが、項目間の記述量に違いがある。すなわち、「どのように」に関して突出して量が多く、事故の経緯が詳述されている。

### 3.2.2. *Rhein-Neckar-Zeitung*

次は *Rhein-Neckar-Zeitung* (電子版、2016年11月9日付) に掲載された記事である<sup>7</sup>。

#### **Leimen: Opel rammt Linienbus**

#### **Die Opel-Fahrerin hatte die Vorfahrt des BRN-Fahrzeugs missachtet. Sie und der Busfahrer wurden leicht verletzt.**

Leimen. (pol/rl) Zwei Leichtverletzte und mehr als 15.000 Euro Sachschaden forderte ein Verkehrsunfall am frühen Dienstagnachmittag. Eine 57-jährige Opel-Fahrerin war gegen 13.30 Uhr auf dem Falltorweg in Richtung

---

<sup>7</sup> [http://www.rnz.de/nachrichten/region/polizeibericht-region\\_artikel,-Leimen-Opel-rammt-Linienbus-\\_arid,233943.html](http://www.rnz.de/nachrichten/region/polizeibericht-region_artikel,-Leimen-Opel-rammt-Linienbus-_arid,233943.html)

Bürgermeister-Weidemaier-Straße unterwegs. An der Kreuzung zur St. Ilgener Straße nahm sie laut Polizeibericht einem Linienbus der BRN die Vorfahrt, der in Richtung St. Ilgen unterwegs war, und stieß mit ihm zusammen.

Die Opel-Fahrerin und der 40-jährige Linienbus-Fahrer erlitten leichte Verletzungen. Die 57-Jährige kam zur ambulanten Behandlung in ein Krankenhaus. Die Fahrgäste im Bus blieben unverletzt. Der Opel wurde bei dem Zusammenstoß so stark beschädigt, dass er abgeschleppt werden musste.

このドイツ語の記事も、同様に、5W1Hの枠組みにあてはめてみよう。

**いつ** : 「am frühen Dienstagnachmittag (火曜の午後早くに)」

**どこで** : 「An der Kreuzung zur St. Ilgener Straße (聖イルゲン通りへの交差点で)」

**誰が** : 「Die Opel-Fahrerin (オーペル運転の女性が)」

**何をした** : 「stieß mit ihm zusammen (バスと衝突した)」

**どのように** : 「Die Opel-Fahrerin und der 40-jährige Linienbus-Fahrer erlitten leichte Verletzungen. Die 57-Jährige kam zur ambulanten Behandlung in ein Krankenhaus. Die Fahrgäste im Bus blieben unverletzt. Der Opel wurde bei dem Zusammenstoß so stark beschädigt, dass er abgeschleppt werden musste. (オーペル運転の女性と40歳のバス運転手は軽傷をおった。57歳の女性ドライバーは外来治療のため病院に搬送。バスの乗客に怪我はなかった。オーペルは衝突でひどく損傷を受けたので、レッカー移動となった)」 「mehr als 15.000 Euro Sachschaden (1万5千ユーロを超える物損)」

**なぜ** : 「nahm sie laut Polizeibericht einem Linienbus der BRN die Vorfahrt, der in Richtung St. Ilgen unterwegs war (警察報道によると、女性は聖イルゲン方面に向かっていたBRN路線バスを優先させなかった)」

### 3.2.3. ドイツの新聞の特徴

この2つのドイツの新聞記事に形式面で共通しているのは、日本の記事と異なり、見出しと本文の間にリード文が挿入されている点である。5W1Hの情報は、日本の新聞と同様にすべて記載されている。しかし、その記載順に日本のような定型はなく、記述量に関しても、必ずしも均一でなく、「どのように」と「なぜ」がより重点的に記述されている。すなわち、日本語では、いつどこで誰がなぜ何をして、どうなったかを端的に、しかもそれだけを記述しているが、ドイツ語の記事では、とくに、なぜそうなったのか、その経緯を、また、どの程度なのかをより詳細に、具体的な金額などを提示することにより、明示している点である。

日本語の記事では、当事者の大まかな住所、職業、性別、年齢、場合によっては実名さえもが記載されていたが、ドイツの記事では、性別や年齢は記載されるが、住所や職業、ましてや実名に言及されることはない。しかしながら、事故に絡んだ車両のメーカー名もしくは車種名に言及することがあるようである<sup>8</sup>。これらのことから、ドイツの新聞記事は、事故について、いつどこで誰が何をしたに関する情報とは別に、なぜそういう事態にいたったのか、その経緯と、その被害の程度に、より重点を置く記述傾向が見られる。

## 3.3. 日独の酒気帯び運転に関する記事

実名報道の扱いの違いが明確に現われる酒気帯び運転に関する記事を比較してみよう。

### 3.3.1. 日本の酒気帯び

---

<sup>8</sup> 脚注1で触れた「研究フォーラム」後、英語の「らしさ」に関して発表した倉橋秀男氏（杏林大学）からオーストラリアの地方新聞の交通事故記事においても事故車両のメーカー名と車種名に言及されるとの指摘がメールであった（例に挙げられていた記事の URL: <http://www.theherald.com.au/story/4300055/one-man-dead-in-singleton-crash/>）。たしかに、ドイツ語の記事に類似している。しかしながら、両社会において、事故に関与した車両のメーカー名や車種名に習慣的に言及する理由は不明である。

『北海道新聞』（電子版、2016年11月13日付）の記事である<sup>9</sup>。

### 旭川の小学校教諭が酒気帯び容疑 歩道を60メートル走行

【旭川】旭川中央署は12日、道交法違反（酒気帯び運転）の疑いで、旭川市春光5の8、市立小学校教諭工藤義之容疑者（55）を現行犯逮捕した。

逮捕容疑は同日午後5時55分ごろ、旭川市宮下通8の市道の歩道上で、酒気を帯びた状態で乗用車を運転した疑い。同署によると、現場はJR旭川駅に近く、工藤容疑者は市道から歩道に乗り上げて約60メートル走行。駅前交番の署員が発見し停車させて事情を聴いたところ、呼気から基準値を上回るアルコールが検出された。

歩道上にはおらず、けが人などはなかった。同署は、工藤容疑者の飲酒の状況や、経緯などを調べている。

同じく、5W1Hの枠にあてはめてみよう。

いつ：「12日」

どこで：「旭川市宮下通8の市道の歩道上で」

誰が：「旭川中央署は」

何をした：「市立小学校教諭工藤義之容疑者を（55）現行犯逮捕した」

どのように：「けが人などはなかった」

なぜ：「酒気を帯びた状態で乗用車を運転した」

記事の内容は、ある男性が酒気帯びで車を運転し、歩道を走行したという事実よりも、記事の論調は、酒気帯びである個人を逮捕したことに重点がある。そして、当該人物の具体的な住所、職業、名前、年齢に言及されている。

### 3.3.2. ドイツの酒気帯び

---

<sup>9</sup> <http://dd.hokkaido-np.co.jp/news/society/society/1-0337573.html>

次の記事はドイツの *Rhein-Neckar-Zeitung*（電子版、2016年11月1日付）に掲載された報道である<sup>10</sup>。

**Heidelberg: 28-Jähriger prallt mit Golf gegen Hauswand - Auto umgekippt  
Der Betrunkene war mit dem Fahrzeug seines Vaters in der Altstadt unterwegs**

Heidelberg. (pol/mün) Polizisten entdeckt in der Nacht zu Dienstag in der Heidelberger Altstadt einen umgekippten VW Golf. Der Fahrer stand - glücklicherweise unverletzt - neben dem Auto, als die Beamten gegen 2.20 Uhr in die Kettengasse kamen. Laut Polizeibericht war der Mann nach rechts von der Straße abgekommen und gegen die Hauswand geprallt. Dann kippte der Golf um. Der 28-Jährige konnte selbst aus dem Unfallfahrzeug klettern.

Bei dem Gespräch bemerkten die Beamten Alkoholgeruch in der Atemluft des Fahrers. Ein Alkoholtest ergab einen Wert von über einem Promille. Auf dem Revier entnahm ein Arzt später eine Blutprobe, der Führerschein des 28-Jährigen wurde einbehalten.

Das erheblich beschädigte Auto wurde von einem Abschleppunternehmen geborgen und abgeschleppt.

この記事も 5W1H の枠組で検討してみよう。

いつ : 「in der Nacht zu Dienstag (火曜日になる夜)」「gegen 2.20 Uhr (2時20分ころ)」

どこで : 「in der Heidelberger Altstadt (ハイデルベルクの旧市街で)」「in die Kettengasse (ケッテン・ガッセに)」

誰が : 「28-Jähriger (28歳の男が)」

何をした : 「war der Mann nach rechts von der Straße abgekommen und gegen

---

<sup>10</sup> [http://www.rnz.de/nachrichten/heidelberg\\_artikel,-Heidelberg-28-Jaehriger-prallt-mit-Golf-gegen-Hauswand-Auto-umgekippt-\\_arid,235194.html](http://www.rnz.de/nachrichten/heidelberg_artikel,-Heidelberg-28-Jaehriger-prallt-mit-Golf-gegen-Hauswand-Auto-umgekippt-_arid,235194.html)

die Hauswand geprallt. Dann kippte der Golf um. Der 28-Jährige konnte selbst aus dem Unfallfahrzeug klettern. (その男性は通りから右方向へはずれ、家屋の外壁に衝突した。その後、ゴルフは横転した。28歳の男性はひとりで事故車両から這い出した)」

どのように：「der Führerschein des 28-Jährigen wurde einbehalten (運転免許証は取り上げられた)」「Das erheblich beschädigte Auto wurde von einem Abschleppunternehmen geborgen und abgeschleppt (かなり損傷を受けた車はレッカーサービス業者が収容し、牽引搬送された)」

なぜ：「Ein Alkoholtest ergab einen Wert von über einem Promille. (アルコールテストは1パーミルを越える値を示した)」

日本の報道とは異なり、ある28歳の男性が車を家屋の外壁にぶつけ、横転させたことが説明され、その帰結について言及されている。注目すべきは、逮捕されていないことだけでなく、実名も住所も記載されていないことである。しかしながら、運転していた車の車種名については言及されている。

#### 4. まとめ

上記の簡単な比較により、次のことが確認された。

日本語の新聞：

事故発生自体に端的に言及

怪我の程度を具体的に言及（肋骨骨折など）

車両の物損については言及されない

職業、現住所、場合によっては実名に言及

→ どのような個人（どこの誰）が事故を起こしたのか、その事実に関心がある。

ドイツ語の新聞：

事故発生状況の具体的で詳細な説明  
怪我の程度は重傷・軽傷として言及  
物損の程度を金額で言及  
事故に関与した人物の個人名や現住所、職業は言及されない  
事故車両をメーカー名（車種名）で言及  
→ 事故がどのようにして起こったか、その経緯に関心がある。

上記の結果を、熊谷(2007)の主張、そしてそこから設定した仮説と照らし合わせるとどうなるであろうか。仮説は、日本の新聞記事は、事実を事実として端的に報道するが、他方、ドイツの新聞記事は、事実を報道するだけでなく、そこに背景や経緯についても言及する、というものであった。たしかに、この仮説は検証された。しかしながら、日本の記事は単に事実を事実として記述するだけでなく、職業や住所に言及することで、「どこのどのような人物」という個人の属性に関する情報を積極的に提供しているように見える。ドイツの新聞記事は、日本のように「どのような人物」という個別の具体的な属性にはあまり関心がなく、どのような経緯である事故や事件が起きたのかをできるだけ詳細に明示的に説明し、特定の個人としてではなく、普遍的な事象として事態を捉えようとしている印象を与える。

このような違いは他の報道テキストにおいても観察されるのであろうか。今後は、この結果を他の新聞記事や雑誌記事、ニュース映像などと比較していく必要がある。そうすることによって、文体をさまざまなテキストにおいて確認していくことができる。

## 文献

- 伊藤光彦. (1987). 『新聞のドイツ語』. 白水社.
- 熊谷徹. (2007). 「日独新聞考」. 『ドイツニュースダイジェスト独断時評』  
Nr. 672 (<http://www.newsdigest.de/newsde/column/dokudan/413-672.html>)
- 西嶋義憲. (1988). 「テキスト型 "Einbandtext" について: 言語学的文体論から  
比較文章構成論へ」『広島ドイツ文学』第3号, 21-36.
- 西嶋義憲. (2014). 「公共サインにおける言語表現の日独比較: 新しい言語比  
較の手法の提案とその有効性の検証」『ドイツ文学論集』第47号, 32-46.
- 西嶋義憲. (2017). 「新聞記事の日独比較」. 「らしさ」の文体論—英語・日  
本語・ドイツ語を考える— [日本文体論学会第110回大会研究フォーラ  
ム報告]. 『文体論研究』第63号, 印刷中.
- Nishijima, Y. & Arai, K. (to appear). "Expressions Used in Disaster Prevention in  
Japanese and German: A Contrastive Sociolinguistic Analysis." Kobayashi, M.,  
Trommsdorff, G., & Hommerich, C. (eds.). *The Proceedings of the 13th  
Meeting of the German-Japanese Society for Social Sciences with the theme  
"Trust and Risks in Changing Societies."*
- 佐賀新聞社. (2005). 「第5回取材の現場から④ 交通事故報道」佐賀大学提供  
講座『ジャーナリズムの現在』  
(<http://www3.saga-s.co.jp/pub/hodo/kogi05/report/005.htm>) .